地域社会による環境管理システムを再構築するために

―生態系調査とメタガバナンスの役割―

*寺林暁良（北海道大学大学院）・竹内健悟（青森市立浪岡北小学校）

1. 背景と目的

1）背景

全国各地で地域住民主体の環境管理が衰退（里山など）
- 生態系サービスの低下とリスクの増大につながる
- 原因は、経済的価値の衰退、過疎高齢化など
- 「二次的自然」の衰退として生物多様性の面からも注目される

（2）目的

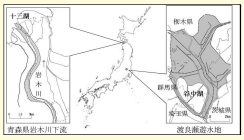
地域環境を保全・管理する経済的理由が乏しい今日、地域社会による環境管理を継続・再生するためにはどうしたらよいか、また、科学や行政はどう関わったらよいかを考察する。

2. 活動地域

（1）青森県岩木川河川敷ヨシ原
- 地域社会による火入れ管理が2007年を最後に不可能に
- 目的：経済的価値の持続、野火や害虫発生の防止

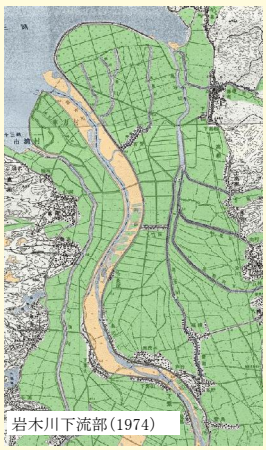
（2）北関東渡良瀬遊水地
- 地域住民主体の火入れ管理が継続
- 目的：経済的・文化的価値の持続、自然環境保全、害虫駆除、不法投棄の防止など

＊両者の比較分析を行う



3. 調査結果

岩木川下流部河川敷



（1）ヨシ原管理の変容
- ①大字による共同・競争刈り（～60's）
- ②刈り取りの業者委託（60's～）
- ③火入れ管理の大規模化（90's～）

（2）火入れ管理への苦情
- ①近隣住民から煙灰への苦情
- ②消防署、警察なども判断を避ける

（3）生態系調査
- ①国土交通省「河川生態学術研究会」
- ②火入れ管理を科学的に正当化
- ③大字自身が「生態系保全」の重要性を訴え始めている
  「野焼きをして自然を守りたい」

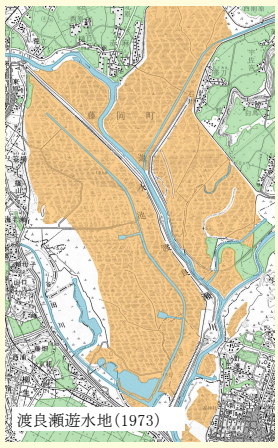
＊「岩木川水系河川整備計画」（2007） ←「環境」重視

火入れ再開に向けた動きに





渡良瀬遊水地



（1）「ヨシ焼き」によるヨシ原管理
- ①渡良瀬遊水地利用組合連合会
  自治会・個人の単位で慣習的にヨシ原を利用・管理 →主催
- ②渡良瀬遊水地ヨシ焼き連絡会
  国土交通省、周辺4市2町、第三セクターなどで組織 →共催

（2）ヨシ焼き連絡会（行政）の役割
- ①火入れ当日の苦情処理
- ②保険・共済金などの資金援助
- ③ヨシ焼きの広報（パンフ、チラシ、広報車、セスナ機）

（3）ヨシ原の価値が広く認知されている
- ①ヨシ焼きは、生態系保全や野火・害虫防止のために重要であることが広く知られている
- ②当遊水地には年間約100万人が来訪
- ③ヨシ焼き自体にもカメラマン大集合



4. 論点

生態系調査の役割

（1）地域環境管理に科学的正当性を与える
- 「環境保全」が地域環境管理における政策の柱となる中で、生態学は「自然」の重要性を行政や他の利害関係者を説得する上で有用なツール

（2）地域社会にとっては、管理継続の「資源」となる
- 地域社会主体の環境管理を「広報」する
- 環境管理のための社会関係をつなぐ（行政を含む）
- 資金供給のきっかけとしても機能しうる

行政の役割

地域社会による環境管理が困難となっている要因を除去
地域社会主体の管理を支援する役割（メタガバナンス）

＊メタガバナンス （Jessop 2000）
- ①利害関係者が共有可能な基本原則・秩序の規定
- ②利害関係者間のコミュニケーションや協働が可能となるような言語・行動様式の共有
- ③情報の共有
- ④苦情処理・利害関係者間のパワーバランスの調整
- ⑤政治責任の明確化

5. 結論

地域社会が地域環境を管理する経済的理由が失われるなか、その管理を継続するためには、地域社会が管理を実施する上で困難となっている要因を取り除いていくような「支援者」の存在が不可欠である。そうしたなか、生態学者は地域主体の環境管理を科学的に正当化し、行政や近隣住民らを環境管理に巻き込む役割を果たしうる。また行政にも、苦情処理や資金援助など、地域社会主体の環境管理を支援する役割（メタガバナンス）が期待される。